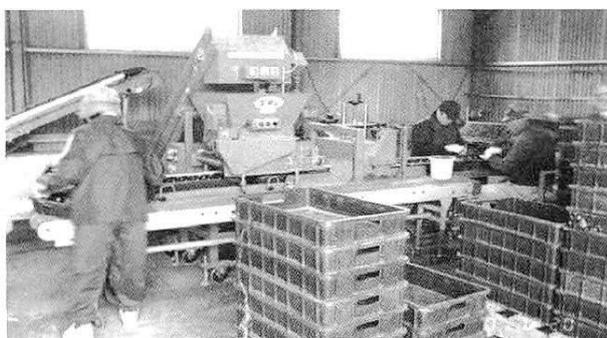


4 花づくり省力化あれこれ

花き栽培は手作業が多く、機械化には向かないと思われがちである。しかし、県下の花き生産現場では、工夫を重ねて省力化を進めている。今回は、その一部を紹介する。

(1) ポットの土入れから定植まで省力化

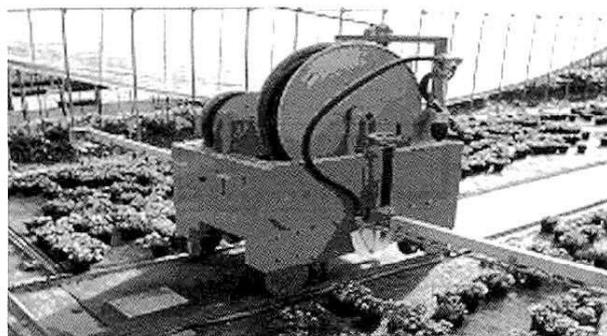
セル育苗が普及した花壇苗鉢物生産では、高性能機械の共同利用で土入れから苗植えまで半自動で行い、作業の合理化を実現している。



(神戸市西区Kグループ)

(2) 夏場、生産最盛期のかん水作業省力化

散水機等の導入で一日仕事のかん水が、1時間で完了。特に夏場に威力を発揮する。



オリジナル散水機 (龍野市Iさん)



スプリンクラーの設置例 (加西市Nさん)

(3) ハウスへの搬出入の省力化

苗物の場所移動に台車とフォークリフトを利用



(神戸市西区Mさん)

(4) 管理の省力化

液肥混入機や静電葉面散布機など、高性能な機種種の導入により作業時間の短縮が図られる。



静電葉面散布機 (神戸市西区Kさん)

(5) 集荷出荷管理と出荷情報整理の省力化



バーコードで在庫管理。多品種共同集荷ではわずか40分で情報整理まで完了。(神戸市北区)

花き業界は現在、消費減退と生産過剰のきびしい逆風にさらされ、ひたすら忍耐の時期となっている。しかし、それでも作業の省力化は、余剰労力を新たな管理作業に手をつけることなど、高品質化を目指す一つの要素でもある。

堀本 祥子 部長 (普及担当)